

両国観光まちづくりグランドデザイン 概要

1 両国観光まちづくりグランドデザインの位置づけ

策定目的

東京スカイツリーが開業し、墨田区に多くの注目が集まる中、両国地域の貴重な観光資源を輝かせ、両国らしいまちの賑わいを呼び覚まし、両国地域の魅力の底上げを図ることで、押上・業平橋地区からの回遊性を促し、墨田区のさらなる魅力の向上を図ることを目的に、両国観光まちづくりグランドデザインを策定します。

策定エリア

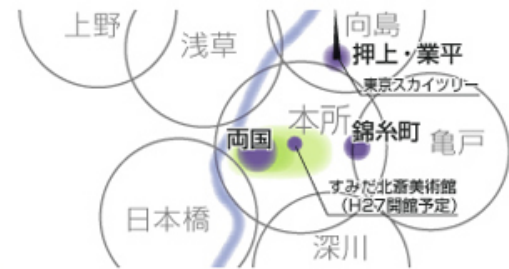
本計画の策定エリアは、概ね隅田川、竪川、蔵前橋通り、大横川親水公園に囲まれたエリアとします。

策定エリア



本計画の広域的な位置づけ

両国地域は、歴史的に隅田川を軸とした浅草や日本橋等の下町文化圏エリアです。一方、東京スカイツリー開業に伴い墨田区内のまちの動きや集客、人の流れに変化が生じています。そうした歴史的背景や、周辺の状況を踏まえ、本計画は両国地域に留まらず、他地域との広域観光ネットワークを視野に入れた計画とします。



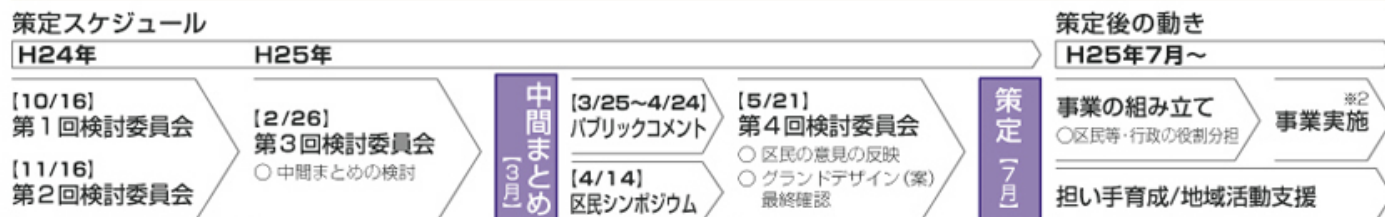
両国観光まちづくりグランドデザインの特徴

本計画は、従来型観光振興の「発掘→磨く→発信」のプロセスに、「編集」の工程を加え、両国固有の魅力や魅力を両国らしく編集し、発信することで、まち全体の魅力の底上げを図ります。



検討スケジュール及び策定後の動き

本計画は、検討委員会^{※1}を中心に下図の流れで検討を進めました。



※1 本計画案は、学識経験者、地元関係者、行政関係者によって構成された「両国観光まちづくりグランドデザイン策定検討委員会」によって検討されました。
※2 具体的な事業展開については、住民、事業者、区等で協議を重ねながら進めていきます。

2 両国地域の現況 ~数字で見る両国~

暮らし、産業、交通、観光の現況を示します。

3 両国地域の特性

まちの構造、構成要素から地域特性を分析します。両国の地域特性を、「隅田川と水辺」、「文化とものづくり」、「暮らしと賑わい」の3つのキーワードで表します。

4 コンセプトと将来像

両国観光まちづくりグランドデザインのコンセプト

両国エリアの現況と地域特性を踏まえ、両国観光まちづくりの方向性を示します。

両国開花宣言

~粋に暮らし、粋に愉しむまち両国~

明暦の大火(1657年)を機とした両国橋の架橋と回向院の創建。震災と戦災からの復興。両国川開き(花火)や相撲の賑わい。北斎が生まれ、暮らしたまち。両国に花開いた食文化や芸術文化、ものづくりの技。下町両国で暮らす人々の強い想い。江戸から受け継がれる粋な文化、災禍を乗り越えてきた人々の心意気、水辺とともにあるいきいきとした暮らし、こうした両国の新たな開花に向けて、「粋に暮らし、粋に愉しむまち両国」を育てていきましょう。

隅田川と竪川、川開きの賑わいと水辺の記憶がひろがるまち

- 鎮魂と復興への想いから始まった、両国川開き(花火)の賑わいをつくる
- 夕涼みなど、暮らしに潤いを与えた水辺の記憶を甦らせる^{※1}
- "橋"に重なる想いを物語として発信する



両国橋と回向院、受け継がれる鎮魂への想い、粋な文化と躍動感があふれるまち

- 両国橋架橋から始まる、まちの記憶と物語を魅せる^{※2}
- 回向院や慰霊堂など、鎮魂から始まるまちの歴史を想う
- 江戸の粋な文化^{※3}・ものづくりの伝統を伝える



過去と未来が織り成す暮らしふりと"おもてなし"心意気がうれしい、懐が深いまち

- 暮らしふりと"おもてなし"、両国の心意気を観せる^{※1}
- 訪れる人を迎える、懐の深い"おもてなし"の心を育む
- 訪れる人とまちをつなぐ、まち歩きを素地を整える



※イラストはあくまでイメージです。

※1 「国の光を観せる」という「観光」の語源から、「地域の光を観せる」という意味で「観る」を使用しています。
※2 「地域の魅力を見せる」という意味で「魅せる」を使用しています。
※3 回向院で興行された勧進相撲、また北斎に代表される浮世絵等の江戸文化を示しています。

5 施策展開と展開のプロセス

施策展開のテーマと方針

観光まちづくりを愉しみ、両国の魅力を地域内外に華々しく発信するために、3つのテーマを設定し、施策を展開します。

施策展開のテーマ: 両国川開き

夏の隅田川を華やかに彩る花火大会の起源となった「両国川開き」をテーマとし、隅田川の水辺の賑わいととも、まちに溶け込みまちに開く、隅田川の記憶や川とともにある暮らしなど、かつてあった水辺の記憶を発信します。

隅田川や竪川、南割下水（現在の北斎通り）等、かつてあった水辺を中心に賑わいと情緒を創出します。隅田川等の水辺までの動線を整えとともに、水辺のイベント、散策や休憩、水上交通を楽しむ環境を整えます。

- ・両国川開きの賑わいの再生と創出
- ・まちの親水性の向上
- ・街並みの修景と誘導

施策展開のテーマ: 両国博覧会

両国の発展の基礎を築いた回向院、回向院で執り行われた勤進相撲、参詣によって賑わった東広小路、東広小路で花開いた食文化や北斎の浮世絵などの芸術文化等、両国のまちに広がる物語を「両国博覧会」をテーマとして紡ぎ出し、発信します。

史跡・旧跡、相撲部屋、小さな博物館や工房ショップ、老舗の飲食店等、両国固有の資源の魅力を向上を図ります。また、個々の資源をつなぐ環境整備や、地域文化の継承・活性化を促し、発信するしかけづくりを展開します。

- ・地域資源の活性化と賑わい軸の強化
- ・江戸の粋な文化の発信
- ・ものづくりの伝統の継承と発信

施策展開のテーマ: 両国棧敷

かつて両国川開きの季節になると、隅田川の水辺は花火を楽しむ人々のための棧敷となりました。今も、国技館では棧敷で相撲の観覧が楽しまれています。「両国棧敷」をテーマとし、両国らしいおもてなしの心意気や活気を発信します。

両国の玄関である駅前やバス停等の交通拠点や、迎える側と来訪者が会えるまち歩きの出発点、各施設・店舗等、おもてなしの場を整え、両国の心意気を伝えます。案内サインや情報発信によるまち歩きのかげ等、両国らしいおもてなしの素地を整えます。

- ・おもてなしの演出
- ・取り組みの底上げと連携
- ・まち歩きの充実と回遊性の向上

魅力を引き出す効果的な視点

「粋・技・心」の効果的な視点を大切に、両国の地域資源を、より魅力的に発信します。

粋

来訪者に両国の魅力をより効果的に伝えるために、両国のしっとりとした美しい景観、歴史ある文化、暮らしなどを「粋」に紡ぎ、発信します。

技

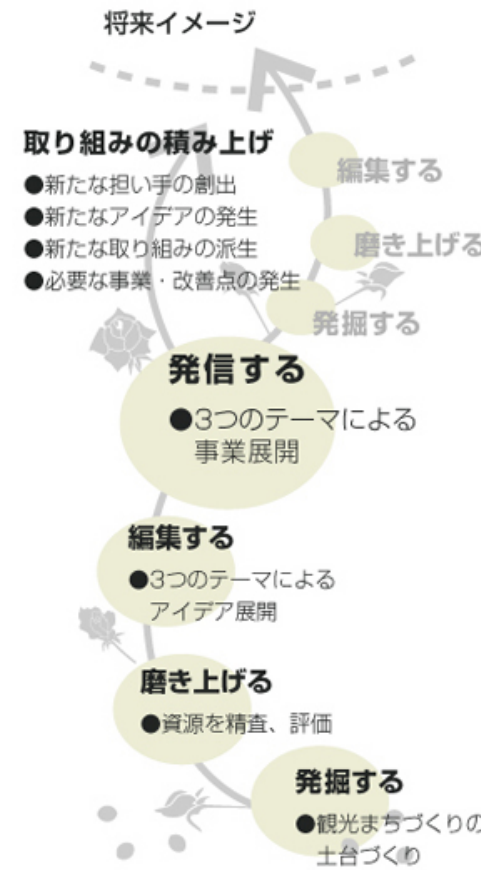
江戸の芸術文化や、産業技術など、両国に結集された粋な「技」を発信します。

心

来訪者をあたたかい気くほり心くほりで迎えるおもてなしの心、両国の「心」意気を表現します。

施策展開のプロセス

効果的な視点を通して発掘し、磨き上げ、編集し、具体的な事業としての展開や身近な取り組みとして発信します。

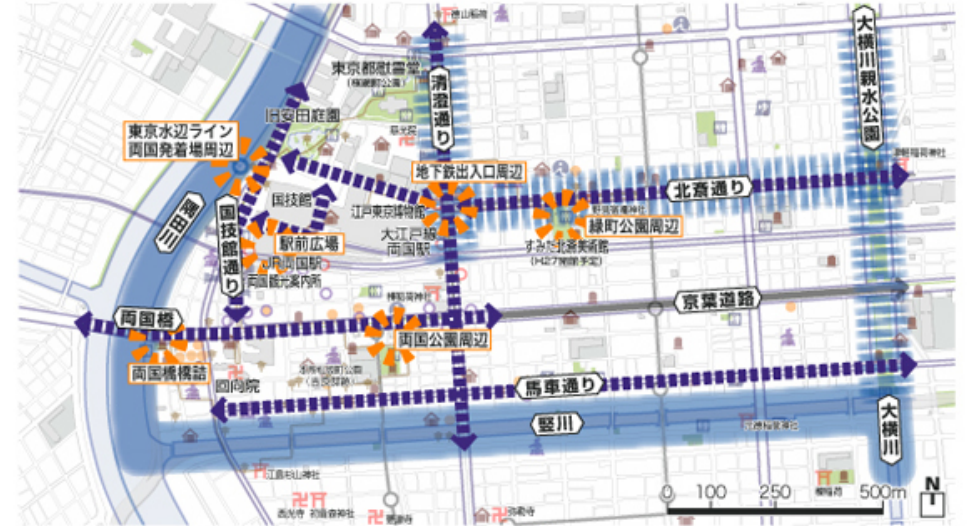


6 両国観光まちづくりグランドデザインの地域展開

まち歩きを中心とした地域展開

地域特性に施策展開を重ね、両国観光まちづくりグランドデザインを地域で展開します。3つの施策テーマの下、両国地域に広がる資源を生かしたまち歩き観光を推進します。

まち歩きの環境づくり



賑わい軸

商店が並んでいる、電線類が地中化されている、歩道が広い、緑が多い、地域資源をつないでいるなど、まち歩きの骨格となる通りを「賑わい軸」とします。賑わい軸は、まち歩き観光の軸として、また、まちなかを安心して歩くための目印となるわかりやすい動線として、両国らしい賑わいを創出します。

まち歩きの拠点

公共交通機関で訪れる人を迎え入れる両国の玄関としての駅前、船着場などの交通拠点や、まち歩きの要所としての緑町公園周辺（すみだ北斎美術館）や両国公園周辺などを活用した観光施設を「まち歩きの拠点」とします。まち歩きの拠点は、賑わい軸と連携し、快適な回遊空間を創出します。

水辺の賑わいゾーン

水辺の記憶ゾーン

7 実現に向けて～取り組みの積み上げ～

ひとりひとりが主人公の観光まちづくりへ～観光まちづくりの進め方～

両国の観光まちづくりは、ソフト事業を中心に進め、必要なハード事業によって支える基盤づくりと、取り組みの主人公であるひとりひとり、そして地域組織等によるネットワーク体制により、取り組みを積み上げていく中長期を見据えたらせん型のスケジュールで進めます。

両国観光まちづくりの担い手

観光まちづくりの取り組みを持続的に積み上げていくためには、担い手の目標の共有、各事業への参画、新しい事業の提案が不可欠です。そこで、提案を受け入れ、取り組みを支える両国らしい柔軟な参加のしくみ、また取り組みを実現するための体制を検討します。

8 区民意見と今後の取り組みの方向性

今後の取り組みに向けた区民等からの意見収集

区民等から幅広く意見を寄せていただくために、パブリックコメント及び区民シンポジウムを開催しました。

区民が考える両国観光の柱



区民が考える両国地域の魅力



アンケート結果から、相撲、北斎、江戸東京博物館や、まちに広がる資源まで、地域の様々な資源に愛着と誇りを持っていることがわかりました。今後は、まち全体に人の流れを創出するしくみ等、まち歩きを中心とした取り組みを積み上げ、両国の多面的な魅力を発信します。

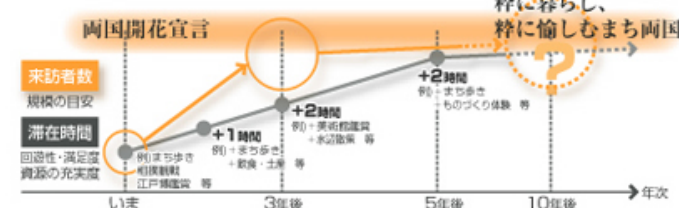
※上記アンケート結果（回収数64件・複数回答可）は、区民シンポジウムで実施したアンケートに基づいています。

9 両国観光まちづくりグランドデザインの目標

両国観光まちづくりの到達目標

目に見えない取り組みの積み上げを、客観的数値によって示すことで、取り組みの成果を評価し、両国にふさわしい観光の規模、かたちを共有します。

両国にふさわしい観光の将来像



来訪者及び地域住民の満足度も観光まちづくりの重要な指標と言えます。満足度の指標については、今後の取り組みの中で地域のみなさんとともに考えていきます。

両国観光まちづくりグランドデザインの波及

両国観光まちづくりは、地域のみなさんの持続的なまちとの関わりにより、観光振興に留まらず、両国地域全体の魅力の向上につながります。



両国地域全体の魅力の向上

- ・両国らしい暮らしと美しい景観
- ・両国への愛着と誇りの醸成
- ・周辺エリアを含む求心力の向上